

たすけあいの輪を  
育てていきたい

2005年、『いぶりたすけ愛』は10周年を迎えます。多くの皆さまに支えられたおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

当会は、『少子高齢社会』をただ嘆くのではなく、心豊かな社会を創る好機と考え、地域住民が自主的・自発的に活動を続けてきました。『困ったときはお互いさま』できるときにできる事をして助け合おう』というささやかな思いが、地域を変える大きな力になると実感しています。

2005年の『いぶりたすけ愛』は、小規模・多機能サービスの拠点をつくりたい、という大きな夢に向かって胸をワクワクさせています。

今年もさまざまな試練を乗り越えて、また少し成長できる1年であらいたいと願っています。そして、多くの皆さまとの出会いを楽しみに、力をあわせて、たすけあいの輪を育てていきたいものです。  
(新川町／星川光子さん・NPPO 法人いぶりたすけ愛理事長)

市民吹奏楽団

〜飛躍の1年を目指して〜

私が吹奏楽に出会ったのは中学



1年生の時ですから、今から欲しい13年前の事です。就職してからは演奏活動とは程遠い生活をしていたのですが、職場の上司から声をかけられ、新しくつくられる事になった、登別市民の吹奏楽団に参加する事になりました。

多くの市民楽団、市民団体が抱える問題のひとつに参加者の確保というものがありません。社会人を中心とした楽団ですので、仕事の都合で練習に参加できない事もあり、練習に参加できるメンバーは違う顔ぶれになってしまいがちです。

音楽は、一人ひとりの技術と、それを求める高い志が基本にあつて、その組み合わせで何倍もの演奏効果を生み出すものだと考えています。特にこれだけの人が参加してくれればいい、というのでは

なく、より多くの人が集まってくればそれだけ幅のある演奏ができますので、これからも老若男女を問わず幅広く扉を開き、皆さまの参加を心よりお待ちしております。

昨年は、基本練習と体制の確立を第一目標としていましたので、目立った活動を行うことはできませんでした。今年からは徐々に演奏活動を行っていきたくと考えています。大きなホールで観客をただ招くのではなく、観客がいてこそその演奏ですから自己満足に陥らず『聞いていただく』の考えと、自分たちが自由に演奏活動を行う事の喜びを第一に、楽器を抱えてこちらから出向いてのミニ演奏会を行いたいと考えています。限られた人にしか理解できない音楽ではなく、どんな人にも親しまれる敷居の低い音楽、敷居のないバリアフリーな演奏を行い、それが市民の皆さまの耳に入り、日常の話題の中でも取り上げられるようになれば大変うれしです。

まだまだ生まれたばかり、成長段階の団体ですが、市民の皆さまのご支援、ご協力を得られるよう頑張っていきます。そして今年1年で大きく飛躍していきたくと思っていますので、応援よろしくお願ひします。

(中央町／塚田未来大さん・登別市民吹奏楽団事務局長)

3

月



▲校旗の返納



▲温中熊舞

登別温泉中学校閉校記念式典(3月14日)

2004年を振り返って③